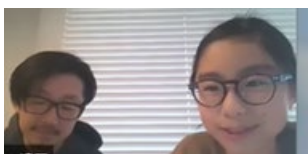


気持ちをつたえる つたえロウ

東京都

三年 遠田 花夏さん



取材にあたって

今回取材する遠田花夏さんは小学校三年生。学校では、社会科、理科、総合的な学習の時間が始まります。この時期は、ちょうど身のまわりの出来事への関心が広がる時でもあります。

そこで、遠田さんの作品づくりに、知的好奇心がどう働いているかを明らかにしたいと思えました。取材を通して、授業に活かせることを整理し、そのうちの四つを紹介したいと思います。

「つたえロウ」という発想が、おもしろいですね。最初にひらめいた時、どこを工夫しましたか。



まず、ロボットだというのが分かるように、後ろにゼンマイをつけたことと、人間とも違和感なく話せるように、人間っぽくしたところです。また、表情が同じだとおもしろくないから顔も二つの表情が分かるようにしました。

【ポイント1】

花夏さんは、ロボット「つたえロウ」に、自分の気持ちが相手に伝わるように言葉を考え、てくれると同時に伝える勇氣も与えてくれる存在を重ねた。ドラえもんのような温かい心をもったロボットだという。思いついた背景に、よりよい人間関係を築きたいという思いと、それが世界の平和にもつながってほしいという願いをもっている。社会の事実への関心がしっかりとひらめきに活かされている。

設計図について、質問しますね。「クランクで動かす」と書いてありますが、どこで思いつきましたか。



もともと図工の工作が大好きで、今までに、いろいろ調べていて、クランクという仕組みももともと知っていました。それで、ちよつと使ってみようかなと思いました。

「クランクを使う工作」は小学校高学年の図工の学習にありますが、もう三年で使えることがすごいですね。

頭の中で、出るところと引っ込むところの動きをイメージしてみて、絵に表しました。

頭の中でイメージしたことを

しっかりと絵に表せたことがすばらしいと思います。

私は、「つたえロウ」のことを書く用のノートを作り、思いついたことをいろいろとまとめていました。

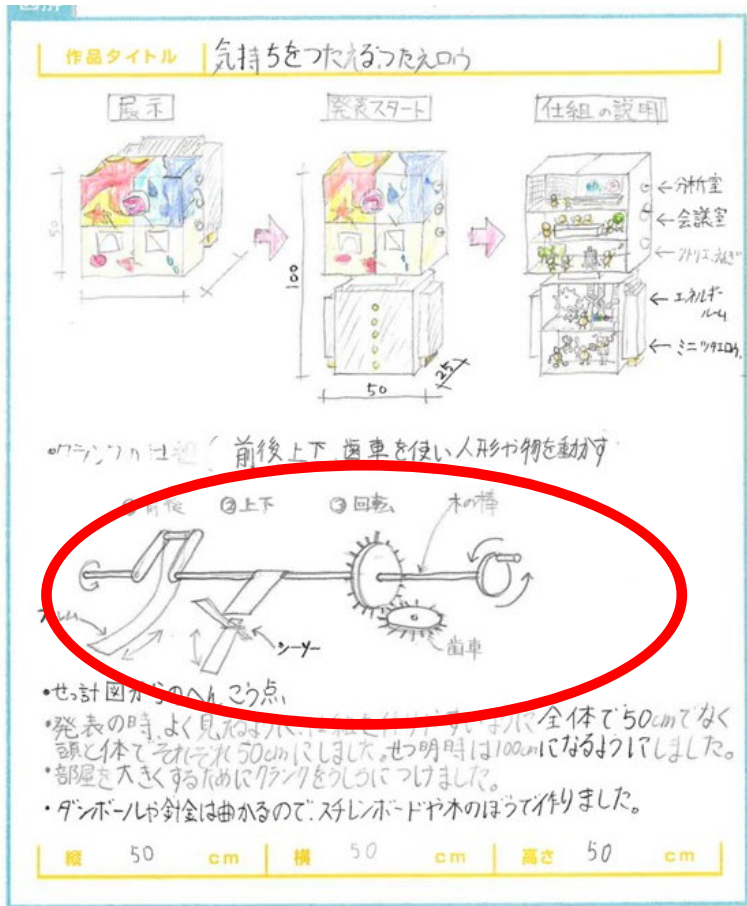
なるほど、普段から思いついたことを書き記していたのですね。他にはどんなことを書き記していたのですか。

例えば、「つたえロウ」が言葉を理解するには、現実的に人間にある電気信号で感じとらせるとか、またファンタジー的な感じで感じとらせるとかみたいなことを書いていました。いろいろ悩んだので、なんだかよく分からなくなっちゃうこともありましたが（笑）。

【ポイント2】

ひらめきを頭の中で終わらせることなく、目に見えるカタチで書き留めておくノートを作成し、継続的に記録できていることがすばらしい。

ひらめきを可視化する行為は、ロジカルに考える力の向上につながる。



花夏さんの記録シートや当日の発表には「試行錯誤」という言葉が使われていました。最も試行錯誤したことについて教えてください。

やっぱりクランクを作るのです。針金は、曲げるのが楽だから、柔らかい針金だと曲がってしまい、動きも変わっちゃいました。それで、木を小さくノコギリで切って組み合わせて作りました。木は頑丈だから、

使ってよかったです。また、動かすとき、人形を置く素材とかを考えるのもすごく大変だったので、クランクの試行錯誤が一番に残っています。

設計図の説明(左の円枠)が本当に具体的で分かりやすいですね。絵もとっても上手ですね。小さい頃から、お父さんと同じままを描く練習をやってきました。



当日の発表を聞いてみると頭の中に入った言葉が順序よく整理できるロボットだとよく分かりましたが、どんなことに気をつけて発表されましたか。

【ポイント3】
学習を仕組む際、試行錯誤の機会は重要である。クランクづくりにおいて、複数の素材を試し、用途に合ったものを選択できたことを具体的に言語化できていることも素晴らしい。保護者の考え方もよりよく影響し、その結果、技能が向上している。

実際に「つたえロウ」の中で起きている順序の順に話しました。例えば、分析室では言葉にならない気持ちを分析し、その結果を会議室で議論して、その後スタジオとかアトリエで伝え方を検証する作業をする順なのですが、それを小人が処理している感じです。

【ポイント4】
頭の中で行う思考過程が明確に説明でき、さらに、小人数が作業をするという発想がとてもおもしろい。

▼あとがき▼取材の中で、花夏さんの「夢をカタチにする過程」が具体的に言語化されていることに驚かされました▼これからの子どもたちに求められる力が備わっています▼試行錯誤を楽しみ、さらにユニークな発想で、頭の中の思考過程を表現した作品には、小学校の教育現場での授業づくりを改善していくヒントが満載でした▼花夏さんのすてきな発想とカタチにしようとする思いにふれ、わくわく感が止まりません▼(H)

アドバイザーとしてのお父さんやお母さんから

毎日、つたえロウについてたくさん考え、アイデアが溢れてくる様子に驚きました。小さい頃から絵や工作が大好きで毎日のように作っていたので、このような大きな作品を作ることがとても楽しかったようです。

難しい部分は父がアドバイスもしましたが、細部までこだわって作成する根気強さと器用さにも驚かされました。長い期間、とても苦労と努力をして自分の考えを作品にすることで、たくさんの学びを得て、よい経験となりました。